

令和6年度 港区立高輪台小学校 学校経営計画

港区立高輪台小学校
校長 森 勇人

1 学校の教育目標

心もからだも健康な子

・すすんで学び がんばる子 ・責任を果たし 助け合う子 ・美しいものを 大切にする子

児童は、「新しいことを知りたい」「できるようになりたい」「自分を高めたい」という意欲を常にもち続けている。また、「自分のよさや可能性を常に発揮したい」という願いや実現への可能性を秘めている。保護者は、「我が子の可能性を最大限に伸ばしてほしい」という願いをもっている。

高輪台小学校の教職員は、保護者・地域と連携しながら、児童の可能性を拓く教育を推進し、児童一人ひとりが主体的に判断し、表現し、考えることのできる力を育てていく。そして、学校及び地域のコミュニティーが一体となって、「楽しい学校」「元気な学校」づくりを推進していく。

2 目指す学校像

子どもたち・先生たちが、気持ちよく相手に接することのできる「楽しい学校」「元気な学校」

東京都教育ビジョン（第5次）並びに港区学校教育推進計画の実現を具現化することは、高輪台小学校教職員一人ひとりに課せられた責務であるとともに、高輪台小学校という組織全体に課せられた課題でもあると考える。その上で、一人の力では困難なことも協働の力、ひいては組織として結集した大きな力で、解決していくことが重要である。全教職員が共通理解だけに留まらず、共通指導・共通行動をとることができる体制を整えることは、「楽しい学校」「元気な学校」づくりに直結し、その積み重ねによって地域に信頼される学校となり得ると考える。

3 中期的経営目標と方策

(1) お互いを認め合う環境づくりの整備

学習や生活の場である学級が児童一人ひとりにとって「心の居場所」となるために、以下に示すような支持的な学級風土に作り上げていく必要がある。

- ・ 常に相手の立場になって考え、相手のよさを見付けようと努める学級
- ・ 互いに協力し合い、自らの力を学級全体のために役立てようとする学級

【具体的方策】

① いじめや不登校の未然防止と早期発見の徹底

- ・ 学校いじめ防止対策委員会を「高輪台小学校いじめ防止基本方針」に沿って計画的に実施し、問題行動の未然防止を図る
- ・ 月1回の学校生活アンケート、年間3回のふれあい月間等の取組の充実による児童の実態把握及びいじめ等の早期発見、早期対応
- ・ 不登校児童についての情報共有及び居場所づくり等組織的な対応

② 人権尊重教育の充実

- ・ 教育活動全体を通じた道徳教育の実践
- ・ 人権教育プログラムを活用した研修による、教職員の人権感覚の醸成

- ・ 特別支援コーディネーターを中心とした各関係機関等との連携による「心の教育」の推進

(2) 生き抜く力を育む学びの充実

児童がもつ無限の可能性を拓き、Society5.0を生き抜くための力を育むため、思考力・判断力・表現力等の育成を重視する。

【具体的方策】

- ① 学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の徹底
- ② 校内研究の充実
- ③ ICTの利活用
- ④ 学習規律・学習習慣についての継続的な指導
- ⑤ 週案簿の活用及び計画的な学習計画の実施

(3) 生涯を通じた学びの充実

高松アカデミー（高松中、白金小、高輪台小、白金台幼、高輪幼）を中心に、幼・小・中12年間を通じた学びの系統性や連続性の理解を深めることで、「小1プロブレム」「中1ギャップ」といった問題に適切に対応していく。これにより、校種を超えて児童一人ひとりに応じたきめ細かな指導を継続することができる。また、学校2020レガシーを通してボランティアマインドの醸成に取り組む。

【具体的方策】

- ① 外部人材の活用による地域と連携した教育活動の充実
 - ア 学校地域支援本部の設置、地域コーディネーターの配置
 - イ 高松中学校、東海大付属高輪台高校との連携
- ② 一貫教育カリキュラムを意識した保育・授業づくり及び交流活動の推進
- ③ 幼稚園・学校だよりを活用した校種間の相互理解の推進
- ④ 「MINATOカリキュラム」「みなときっずなび」を基本とした12年間を見通した教育内容の実践
- ⑤ 小学校入学前教育カリキュラムを活用した生活指導の系統性・連続性の確保
- ⑥ 「花いっぱい運動」等のボランティア活動を通じた、共生・共助社会の形成を担う児童の育成

(4) つながり、伝え、循環する学びの充実

学校を中心として、家庭・地域と相互に協力関係を結び合える学校、常に新しい知識や技能に触れることができる学校、地域に貢献できる学校として地域の期待に応え、地域の理解と協力を得ることができる学校づくりを推進する。

【具体的方策】

- ① 学校運営協議会の設置及び地域コーディネーターとの連携による教育活動の充実
- ② 高輪台小学校同窓会及びPTAとの連携・協働
- ③ 学校ホームページやX（旧Twitter）を活用した積極的な情報発信

4 令和6年度重点目標

(1) 【徳】思いやる子の育成

- ① 道徳教育や体験活動を充実させることで、自分を大切にするとともに、他者の痛みを理解し、思いやる心の育成に取り組む。さらに、「挨拶で心をつなぐ」ことを重視し、挨拶や返事ができ、思いやりの気持ちをもって他者と関わる精神を大切にしていく。

「高輪台小の子どもたち」＝「気持ちのいい子どもたち」となることで、保護者の方々及び地域の方々と心のつながりを大切にすることの育成を目指す。

- ② 全教職員で子ども一人ひとりの心の変化を見逃さず、いじめや不登校、問題行動等の未然防止・早期発見に努めていく。

(2) 【知】考える子の育成

- ① 言語活動を充実させ、確かな学力を育む。教員自らが学ぶ姿勢をもち続け、毎日の学習指導の改善・充実を目指す。特に「言葉で伝えることの大切さ」を重視し、日頃から「言葉にこだわる」授業展開を積極的に行っていく。また、計画的な課題提示やデジタルコンテンツ等への取組の機会を設ける等、家庭学習の活用を意識的に行い、学力の向上を図る。

- ② 国際理解教育の充実を図る。

ア 国際社会で主体的に社会参画し貢献できる児童を育成するために、英語によるコミュニケーション能力の育成や自国・他国の文化の同じと違いの理解を育む指導を行う。

イ 「国際科」「英語科国際」の指導について、質の一層の向上を目指す。英語ルームの設置、英語教材の整理集約、掲示板や児童が自由に英語に触れる場の設定等、校内の学習環境を整える。

- ③ ICTを活用した学びを充実させる。

ア 一人一台タブレット端末の利活用による「一斉学習」「個別学習」「協働学習」の推進を図る。また、プログラミング教育をとおして、プログラミング的思考の育成や各教科等の学びの実現につなげる。

イ GIGA ワークブックとうきょうを活用し、発達段階に応じた情報モラルの教育を計画的に実施する。

ウ ICT教育に関する教員研修を定期的に行い、教員のICTリテラシーの育成を図る。

(3) 【体】元気な子の育成

- ① 体育の授業、体育朝会、休み時間等、学校生活の中で運動する機会を積極的に設け、子どもの心身の調和的な発達を大切に、健やかな心身を育てていく。本校が継続してきた朝や放課後のクラス遊びの時間や、縄跳びチャレンジ等の校内の体力向上の取組を実践し、体育授業の改善と充実を図る。

- ② 「早寝、早起き、朝ご飯」を呼びかけ、規則正しい生活習慣の定着や健康教育（食育を含む）の推進など、家庭との連携を図り充実を進める。

(4) 【和】情報の共有と共通行動の徹底

校務は自らの責任において確実に行う。特に分担して仕事を行う場合、その長となる者は、進行管理を確実に行う。

- ① 上司への報告・連絡・相談・記録・確認を励行する。上司が「知らなかった」や、問題や不都合が起こってから「後で聞いた」というような事態があると、学校の信用は著しく失われることになる。また、学校内で取り組む事項を、管理職に連絡等を行わずに進めることは絶対にないようにする。

- ② 報告・連絡・相談のそれぞれを明確にさせる。また、連絡や相談に伴い、進捗状況や結果についても必ず報告を行う。

- ③ 校務分掌組織を尊重する。その中でも、個人の仕事若しくは学校全体に関わる仕事の優先順位については、状況により適切に判断するといったバランス感覚を養う。

- ④ 学校だより、学年学級通信、学校掲示物、学校ホームページ、土曜授業、保護者会など

の場を有効に活用し、学校や教職員も日々努力している姿を発信していく。

5 教職員の働き方改革

教育の質を更に高めることを目的とし、教育活動や職務内容の効率化及び精選を図ることで働き方改革を推進していく。

- ① 一日の超過勤務を2時間以内とし、月45時間上限の遵守の徹底を図る。また、水曜日は定時退勤日とする。
- ② 教材研究、事務処理等の時間を確保のため、会議の精選、ペーパーレス化の推進、スクール・サポート・スタッフ及びOffice365の活用を積極的に行う。
- ③ 相談しやすい職場づくりを行う
 - ア 毎週月曜日に4級職の会（管理職、主幹教諭、指導教諭）、毎週木曜日に学年会を実施し、学習・生活指導や児童・保護者等に関する情報共有を行い、諸課題への未然防止や早期発見・早期解決に努めることでトラブル対応等にかかる時間の短縮を図る。
 - イ 教員同士が授業の相互参観を行い、アドバイスをし合う機会を設けることで、共に学び、共に創るといった学校風土を醸成し、学校の教育力の向上につなげる。

6 組織運営と人材育成

(1) 組織運営と職務目標

学校は、学校の教育目標、校長の経営方針に基づき、その目標達成を目指し組織的に教育活動を展開していく必要がある。教職員が組織目標を常に意識し、協力体制を構築しながら個々の校務分掌をもって遂行し、チーム高輪台として学校の教育力の向上を目指す。

- ① 教職員が互いのよさを生かして学び合うことで、OJTの円滑な実施を図る。
- ② コミュニケーションを基盤としたチームワークで各組織内の連携を図る。
- ③ 学校評価を、児童には年3回（7月、12月、3月）、保護者・地域には年1回（11月）行い、結果分析から見えてきた課題については、迅速に対応する。
- ④ 校務分掌は、前例にとらわれることなく、常に創意工夫を図る。

(2) 特別支援学級（あじさい学級）の円滑な運営

高松中学校に設置されているあじさい学級のよさを教育活動に反映し、特別支援教育の一層の充実を図る。教職員の管理、事務の取扱、給食の提供、施設の整備、教育課程の管理等については、区や高松中学校と連携して、円滑に教育課程を進めていく。

- ① 知的障害特別支援学級として、心身の発達の状態や特性を踏まえた児童一人ひとりに応じた指導を行う。
- ② 第1学年2名、第4学年2名、第5学年1名、第6学年1名の計6名の小集団を複数の教員がチームを組んで指導し、児童の実態に応じた支援や指導を行う。
- ③ 本校の児童、高松中学校の生徒、近隣幼稚園・保育園の園児との相互の交流及び共同学習を推進していく。

(3) 学校運営協議会の円滑な運営と有効な活用

- ① コミュニティ・スクールとして、本校の特色ある教育活動の一層の充実に向けて、学識経験者、地域・保護者の代表、関係諸機関と定期的に協議する場を設け、本校の教育活動を共に創り上げていく。特に、令和6年度は、国際理解教育及びいじめ防止推進事業の充実に向けた検討を重要議題の一つとして取り上げる。
- ② 開校90周年の取組について、実行委員会、学校運営協議会、PTAとも連携しながら進めていく。校内組織としては、式典委員会、集会委員会、環境委員会、記念誌委員会の4委

員会を立ち上げ、準備を進めていく。

- ③ 地域の防災ネットワークと連携した防災教育や、「東京防災」や防災ノートを活用した防災教育を行う。

(4) 教職員の服務規律の徹底

教職員は、児童・生徒等の成長に大きな影響を与えることから、専門的知識はもとより、豊かな人間性と使命感が求められる。その職責を十分に理解し、倫理観や規範意識等をより一層高め、服務の厳正に努めることが必要である。

- ① 常に危機管理意識や人権感覚を磨く努力をする。
- ② 社会人として適切なルールやマナーの遵守を徹底する。
- ③ 私費会計の適正な処理及び会計簿の作成、会計報告を適切に行う。
- ④ コスト意識をもち教育の質の向上に努める。
- ⑤ 教職員であるという立場を忘れず、節度のある言動に心掛ける。

(5) 教育環境・学習環境の整備

教育の質を高めるために、教材研究や教材準備、教育環境や学習環境の整備を万全にしている。また、日頃から研修に努め、教育者として自らの資質向上を目指していくことが重要である。さらに、教職員のメンタルヘルスにも心掛ける。教職員の健康管理をとおして、健康で明るい学校づくりを目指す。

- ① 校内研、区教研、高松アカデミーでの研究の場を活用して、授業力の向上を図る。
- ② 指導教諭1名、区マイスター教員2名による指導の場を設定し、全教員の学習指導力の向上を図る。
- ③ 花と緑に囲まれた潤いのある環境を整備する。
- ④ 学び合いの場として、教室を含めた校舎内の掲示板を積極的に活用する。
- ⑤ 常に整理整頓を行う。教師自らが常に範を示すことができるよう工夫する。
- ⑥ 遊び場の確保等、区と連携して整備を行う。